二分脊椎症児童の超軽量化交互歩行式長下肢装具の使用経験

野田　和利、中島　博光、山崎　広司
浅井　　淳、池田　大介、平見　啓介
[川村義肢株式会社]
柴田　　徹、川端　秀彦
[大阪府立母子保険総合医療センター　整形外科]
藤岡　真紀、瓦井　義広、市口　牧子、稲垣　友里
[大阪府立母子保険総合医療センター　リハビリテーション科]

二分脊椎症の児童の歩行訓練には、以前より装具を用いた療法が行われている。

今回我々は、リハビリ訓練を続けている両下肢完全麻痺の児童に対し、股継手にカスケイド社のウォークアバウトを使用した長下肢装具を製作した。その構造と装具の使用経験を報告する。

交互歩行式の長下肢装具には、ARGO‘RGOの使用が考えられるが、今回は対象が6歳の児童であるため重量的に実用的ではない。そのため装具の軽量化を最重要点とした。

本来支柱に金属を用いるところをすべてプラスチックの成形技術を使い補強を入れた。二分脊椎症で体幹の支持が必要となる為、プラスチックで体幹部を製作し、体幹部の取り付けに際し内側のウォークアバウト継手以外にも外側にプラスチックのジョイントを設けた。結果として、装具の総重量を1500グラム以下に押さえる事に成功した。

以上の経緯にて製作した装具の使用経験について報告する。